

(講座) 分子創薬科学 (研究室) 分子薬理学
(氏名) 藤田 亮介 (職名) 助手

【研究テーマ】

1. 神経系受容体と G 蛋白質の情報伝達に関する研究
2. ストレスと神経細胞死および神経新生と関連遺伝子群のクローニング解析に関する研究
3. 痛みの分子薬理、分子生理学に関する研究
4. 脳に存在する新しい受容体と新しい内在性物質の探索、クローニングに関する研究

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Hamabe W, Fujita R and UEDA H; Insulin Receptor-Protein Kinase C- γ Signaling Mediates Inhibition of Hypoxia-Induced Necrosis of Cortical Neurons. J Pharmacol Exp Ther. 2005 Jun;313(3):1027-34. (IF:4.335)
2. Mizota K, Yoshida A, Uchida H, Fujita R and UEDA H; Novel type of G(q/11) protein-coupled neurosteroid receptor sensitive to endocrine disrupting chemicals in mast cell line (RBL-2H3). Br J Pharmacol. 2005 Jun; 145(4):545-550. (IF:3.325)

B 邦文

(B-b) 総説

(B-c) 著書

【学会発表】

A 国際学会

(A-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

(A-b) 一般講演

B 国内学会

(B-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

1. 藤田亮介・植田弘師: 脱髄における LPA シグナルと神経因性疼痛発生機序、日本薬学会第 125 年会、2005 年 3 月 (東京)
2. 藤田亮介・植田弘師: Neuropathic pain とリゾフォスファチジン酸、第 26 回

(B-b) 一般講演

1. 木口倫一、藤田亮介、植田弘師: 坐骨神経の組織片培養におけるミエリン関連タ

- ンパク質発現減少、薬理学サマーセミナー2005 長崎、2005年9月（長崎）
2. 溝田香緒里、藤田亮介、植田弘師：肥満細胞における神経ステロイド及び内分泌かく乱物質による Gq/11 連関型膜受容体を介する脱顆粒応答の変調、第58回日本薬理学会西南部会、2005年11月（長崎）
 3. 木口倫一、藤田亮介、植田弘師：坐骨神経の組織片培養における LPA 誘発性脱髓現象、第58回日本薬理学会西南部会、2005年11月（長崎）

【研究費取得状況】

1. ストレス誘発性非小胞分泌機構の解明-HIV ウイルス蛋白質 TAT 遊離の分子基盤：
若手研究B

【学会役員等】

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	15 編	（邦文）	0 編
総説（欧文）	1 編	（邦文）	0 編
著書（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
紀要（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
特許	0 件		